

令和8年度 学校評価（自己評価）計画書

石川県立小松高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
<p>1 学びのある学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立に向けた指導や学力層・個に応じた学習指導により、上級学校進学のための学力を保障する。 ・すべての教科科目において、自ら課題を発見し、正答のない問題に粘り強く取り組み、解決することができる探究力を育成する。また、一人一台端末の効果的な活用や本質に触れる主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力の伸長を図る。 ・相互授業参観や研究授業の実施、各種研究会への参加など、研修・研究に積極的に取り組み、教職員の授業力の向上を目指す。 	①	教務課 各教科 各学年	主体的に深く考えて学習する習慣が着実に定着していると考えられるので、今後も主体的な学びのサイクルの習慣化を継続する必要がある。	【成果指標】 生徒が主体的に学習する習慣を身につけている。	予習を重視することにより、主体的に深く考えて学習する習慣が身につけていると自己評価する生徒の割合が全体の A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	7月・12月に調査する。 (生徒アンケート)
	②	SSH 各教科 各学年 教務課	「探究力」育成のために、生徒一人一台端末が効果的に活用されているかどうかについて検証できていない。	【成果指標】 授業において、「探究力」を身につけるためにオンライン学習を有効に活用することができている。	授業において、「探究力」を身につけるためにオンライン学習を「有効に活用することができた」（「有効だった」の回答のみ）と考える生徒の割合が A 50%以上である B 40%以上である C 30%以上である D 20%未満である	Dの場合は改善策を検討する。	年度末等に調査する。 (生徒アンケート)
	③	SSH 進路指導課 各教科 各学年	「課題研究発表会」でルーブリックによる評価を行っているが、ルーブリックが自身のフィードバックに「やや有効に活用された」と考える生徒が多く、「有効に活用された」と考える生徒は少ない。	【成果指標】 「課題研究発表会」におけるルーブリックによる評価を、生徒が自身のフィードバックに有効に活用できている。	「課題研究発表会」において、ルーブリックが自身のフィードバックに「有効に活用された」（「有効だった」の回答のみ）と考える生徒の割合が A 60%以上である B 50%以上である C 40%以上である D 30%未満である	Dの場合は改善策を検討する。	各行事後に調査し、年度末に集計する。 (生徒アンケート)
	④	SSH 進路指導課 各教科 各学年	すべての教科で探究力を育成する授業を行っているが、探究活動を通して「やや探究力がついた」と感じている生徒が多く、「探究力がついた」と強く実感している生徒は少ない傾向にある。	【成果指標】 すべての学年において、探究活動を通して探究力を身につけている。	すべての学年において探究活動を通して「探究力が身についた」と考える生徒が A 50%以上である B 40%以上である C 30%以上である D 20%未満である	Dの場合は改善策を検討する。	ポートフォリオを通して随時検討するとともに、年度末に調査を行う。 (生徒アンケート【新規】)
	⑤	教務課 各教科	相互授業参観週間等の取り組みは毎年実施されているが、教科指導力を教員自らが高められ、各教員の授業の質的向上を図ることができるような実施体制が整っていない。	【努力指標】 教員が、相互授業参観への取り組みを効果的に活用することで、自らの教科指導力を高め、授業の質的向上を図っている。	相互授業参観への取り組みを効果的に活用することで、自らの授業を改善することができたと自己評価する教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	相互授業参観週間後に調査する。 (教員アンケート【新規】)

令和8年度 学校評価（自己評価）計画書

石川県立小松高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 個性が輝く学校 ・学習指導と進路指導の連携が取れ、3年間を見通した指導体制のもと、生徒に高い志を持たせ、一人一人の進路実現を図る。その際、低学年からのキャリア教育や探究活動を充実させ、学ぶ意欲や進路意識の高揚を図る。 ・「文武両道」「自主自律」の精神のもと、学習活動や部活動、学校行事、生徒会活動の充実を図り、レジリエンスの涵養と豊かな人間性・社会性・主体性を育む。	①	進路指導課 教務課 各学年 SSH	入学する生徒の学力幅が拡大する傾向が続いている。また、入学時から高い進路目標を設定する生徒が少なくなってきた。しかし、学年や教科と協力しながらキャリア教育の充実と教科指導力向上の方策を展開することにより、入学後学年が上がるごとに、難関大学を志望する生徒が増加している。多様化・複雑化する大学入試に対応するため、進路指導力、教科指導力、情報発信力をさらに高めていく仕掛けを強化している。学年・教務・SSH・NSH・生徒会などとの連携強化を図り、キャリア教育の充実をより進める必要がある。	【成果指標】 生徒が、難関10大学や国公立大学医学科等の高い進路目標を設定している。	難関10大学と国公立大学医学科を志望する生徒数（第2学年）の合計が A 192人（60%）以上である B 160人（50%）以上である C 144人（45%）以上である D 144人（45%）未満である	Dの場合、改善策を検討する。	7月と1月の第2学年進路志望調査結果による。
				【成果指標】 難関10大学と医学科の合格者数が多い。	難関10大学と国公立大学医学科の合格者数の合計（現役生と過年度生の合計）が A 70人以上である B 60人以上である C 50人以上である D 50人未満である	Dの場合、改善策を検討する。	年度末の大学入試結果による。
	②	生徒指導課	生徒が端正な服装容儀や挨拶をしていると考える保護者の割合が、目標値よりも低い。	【成果指標】 服装や挨拶などの生活指導が適切に行われている。	生徒の服装・挨拶などの生活指導が適切であると考える保護者の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 80%以上である D 80%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	7月・12月に調査する。 (保護者アンケート)
	③	生徒指導課 教育相談室 各学年	「みんなで何かをするのは楽しい」と考える生徒の割合が高いが、否定的な回答をする生徒も一定割合存在する。生徒の生活状況を把握しながら、いじめを許さない環境づくりに努めていかなければならない。	【成果指標】 いじめが起きにくい、いじめを許さない環境を維持するため、生徒が「みんなで何かをするのは楽しい」と感じながら学校生活を送っている。	みんなで何かをするのは楽しいと考える生徒の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 80%以上である D 80%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	7月・12月に調査する。 (生徒アンケート)
	④	生徒会課 部同好会顧問	「部活動と学業の両立ができたと感じている」に関しては職員と生徒の肯定感の割合は持続している。	【成果指標】 生徒自身が取り組んだことを肯定的に捉え、その結果から次の活動への取組を主体的に考える。	主体的に部活動に取り組むことができたと考えられる生徒の割合が A 65%以上である B 50%以上である C 40%以上である D 40%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	7月・12月に調査する。 (生徒アンケート【新規】)
⑤	保健環境課	校舎内の清掃がしっかり行われていると感じる生徒の割合は高い。環境美化意識を向上させるために、日々の清掃に加え、大掃除、環境美化週間を設定して取り組んでいる。感染症対策、ゴミの減量化として教室、廊下にゴミ箱を置かず、ゴミの持ち帰りにも取り組んでいる。	【成果指標】 生徒の環境美化意識が高まっている。	環境美化意識を持って行動している生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	7月・12月に調査する。 (生徒アンケート)	

令和8年度 学校評価（自己評価）計画書

石川県立小松高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2	⑥ 教科・学年および図書委員会と連携し、生徒の図書室利用を促進する。また、読書への関心を高め、知的好奇心の喚起に努めることで、総貸出冊数を増加させる。	図書室 各教科 各学年	生徒が気軽に立ち寄れる図書室を目指し、図書展示の工夫や、生徒が魅力を感じるようなイベント企画に取り組んでいる。 近年減少が続いていた貸出冊数が、昨年度は増加し、図書室利用促進の一定の成果がみられた。しかし不読率は昨年度と横ばいであり、改善に至っていない。	【成果指標】 不読率が改善している。	年3回（5月・7月・9月）不読率の平均が A 50%未満である B 60%未満である C 70%未満である D 70%以上である	Dの場合、改善策を検討する。	年3回（5月・7月・9月）集計を行う。
	⑦ 体育の授業を通じて、体力向上の大切さを理解させ、筋力・走力と、体力の源である持久力アップのための取組を行う。 春（4、5月）と秋（10月）に持久走を測定し、タイムを比較する。	保健体育科 各学年	運動量の二極化により、運動習慣のない生徒が増えている。 学年間でも取組に差がみられる。	【成果指標】 生徒の走力（持久力）が向上している。	走力（持久力）の記録が、春より秋に向上した生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	秋の計測終了後、12月に集計を行う。
3 地域から信頼される学校 ・学校公開やホームページ等を通じて本校の教育活動を積極的に情報発信し、「保護者や地域から信頼される学校づくり」、「開かれた学校づくり」を推進する。	① 主な学校行事や特色ある教育活動等について、生徒・保護者・地域から求められる情報を、ホームページやPTA活動等を通じて発信する。	総務課 教務課	保護者の本校教育活動に対する関心は非常に高く、ニーズも多様である。各課・室・学年・部同好会が協力し、保護者のニーズに的確に応えられるように、ホームページの更新やPTA活動等（PTA広報誌）において情報発信に努めている。	【満足度指標】 保護者が、学校は「開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいる」と考える保護者の割合が	学校は開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいると考える保護者の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	7月・12月に調査する。 （保護者アンケート）
	② 部・同好会活動が、各々の特性や得意な分野を活かすなど、地域等のボランティア活動に年間最低1回は参加する。	生徒会課 部同好会顧問	例年、ほとんどの部・同好会活動が、各々の特性や得意な分野を活かすなど、ボランティア活動に取り組んでいる。	【成果指標】 部・同好会単位で、活動拠点である校内の環境の整備に注力し、安全な活動を自ら構築するよう努めさせる。	校内の安全な環境を意識して、ボランティア活動に参加した部・同好会活動の数が全体の A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	1月に調査する。 （アンケート形式）
4 教職員の働き方改善 ・各自がワークライフ・バランスやタイムマネジメントを意識して業務や部活動の効率化を進め、時間外勤務時間の縮減に努める。	① 教育的効果を考慮しつつ、行事・業務の整理を行うとともに、業務の標準化を進める。	副校長	年間を通して多様な行事・取組・業務が錯綜していたが、「行事や業務の整理・統合・精選」に取り組んだ結果、R5年度は、前期55%、後期58%でC評価であったが、R6年度は、前期70%、後期77%、R7年度は、前期64%、後期76%とともにA評価であり、一定の評価を得ている。	【満足度指標】 教職員が「行事や業務の整理・統合・精選」により、校務の効率化が図られたと考える教職員の割合が	行事・業務の整理・統合・精選により、校務の効率化が図られたと考える教職員の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	Dの場合、改善策を検討する。	7月・12月に調査する。 （教員アンケート）
	② 月4回の定時退校日、部活動の休養日等を設定し、さらに業務遂行の効率化を進める。	教頭	時間外勤務が80時間を超える教員の割合が、一昨年度は7.5%で、昨年度は8.2%とともにB評価であった。	【努力指標】 時間外勤務が80時間を超える教職員がいない。	時間外勤務が80時間を超える教職員の割合が A 5%未満である B 9%未満である C 13%未満である D 13%以上である	Dの場合、改善策を検討する。	勤務時間記録による。